

#### がっこう 学校だより

めざす学校像 < 仲間とともに、愛と絆を育む学校 >

鈴鹿市立河曲小学校 電話 059-382-0268 Fax 059-382-7851





発行者

校長 中野 誉

令和6年9月17日発行 No.6

### ぜんこくがくりょく がくしゅうじょうきょうちょうき **決況調査**(教科に関する調査結果について)

4月に実施された6年生対象の「全国学力・学習状況調査」の結果が発表されました。 この調査は、児童の学力や生活習慣等を把握するとともに、それらを踏まえて学習指導の がぜん じゅうじっ 改善・充実につなげることを目的として毎年実施されています。

## まょっか かん ちょうさ **教科に関する調査について(平均正答率**

	みえけん 三重県	ぜんこく <b>全国</b>
こくご 国語	67	67.7
きんすう 算数	62	63.4

本年度は、国語・算数ともに平均正答率は全国や県を上回り、 がらりょくこうじょう とりくみ せいか 学力 向上の取組の成果がようやく出た結果となりました。引 き続き学校の授業や家庭学習を通して、子どもたちにとって 必要となるがを脊んでいきたいと態いますので、今後もご 

# 正答率が低かった問題(弱み)

さん 算 数

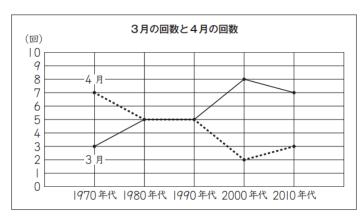
(3) こうたさんは、 | 970 年代から 20 | 0 年代について、 C市の桜の開花日 の月を調べました。すると、 | 970 年代以降は、開花日の月が3月と4月 のどちらかであることがわかりました。

そこで、開花日の月について、各年代の3月の回数と4月の回数を、下 のように折れ線グラフに表しました。

こうたさんたちは、左の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて 話し合っています。



1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多い ですね。





3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。



3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

左の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代 はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがい は何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、 3 月の回数と 4 月の回数 が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

【正答例】3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の 3月の回数と4月の回数のちがいは6回です。

折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件にあてはまることをかどうかをみる問題です。 まかいとう 無回答がいちばん多い問題でした。「3月の回数と4月の回数のちがいが 最 も大きい年代は 2000年代である」ことだけ書いてある回答が多かったようです。

③ 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。







この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm³ かを求める式を書きましょう。 ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必 要はありません。

山

さん

の

取材 び

の

似生に

聞

いたこと

から言葉や

文を

取

IJ

げて書くこと。

百

字 メモ の

以

内に

まと 下級 つ

めて書くこと。

# 【正答】22×22×22



きゅう のもょっけい なが とりっぽたい いっぺん なが 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの かんけい 関係をとらえ、立方体の体積の求め方を式に <sup>あられ</sup> 表すことができるかどうかを見る問題です。 たいゅうりつ 円周率3.14を使って立式したり、直 の22cmを使って立式していなかったりし た回答が多くありました。

> 語 玉

> > 容を えた 高

ど 「たて

0

よう

10 IJ

きま

す 0

10 L

わ せて

書きま あ 11

次

さ

文

遊

よさを書こうと

7 合

> ŧ す

な

六十字以上、

が楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」 のよいところは、 【正答例】「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、せいとうれい にい ねぇ あそ たの 学年をこえた交流ができるところだと思います。

0 高 たて

わ

W

遊

よさに

(1

て考えたことを書くこと

条 【高山さんの文章】 件

#### みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、 同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。 「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良く なります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、 3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、 下級生も楽しめるように、<sub>ア</sub>きょうぎの作戦を考えたりします。 「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生 といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。 このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになる ところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ 活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを 下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジ ボールでは、上級生が遠くからボールを<u>ィな</u>げるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について 6年生がくふうしていること

- ○遊びたいことを下級生に聞く
- ○ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- ○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- ○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- ○4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

う。	が高山さんなら、	山さんの取材メモ	
[		_	
		をもとにして	
	10	10	
	入る	L	
	る	7	
う	ー に		

もくてき い と かう しょう かんそう いけん くべつ かっぱん じぶん かんが つった 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の 考 えが伝わるよ き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題です。下級生に聞いたことから言葉や文 を取り上げて書けてはいるものの、「たてわり遊び」のよさについてが考えたことを書けていない がいとう。 回答が多くありました。記述式の問題はまだまだ苦手なようです。

# 2 児童質問紙調査について

児童質問紙は、児童の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査です。63項首の質問がありました。特に、本校の「強み」や「弱み」となっている項目は次の通りです。 \*\*\*

#### (1)全国や県と比較してポイントが高い項目(強み)

(%)

しつもんこうもく 質問項目	まんこう 本校	みえけん 三重県	ぜんこく <b>全国</b>
がっこう じゅぎょうじかんいがい ふだん げつようび きんようび とうかん 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、 勉強をしますか。→1時間以上の割合	67.6	50.6	54.6
とようび にちょうび がっこう やす ひ	64.7	40.4	48.6
国語の勉強は好きですか。	70.6	57.7	62.0
算数の勉強は好きですか。	78.0	61.9	61.0
算数の授業の内容はよく分かりますか。	94.2	84.8	82.1
「対対しいできょう」がくしゅう 算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	91.2	78.2	77.9

## (2) 全国や県と比較して気になる項目 (弱み)

しつもんこうもく 質問項目		みえけん 三重県	ぜんこく <b>全国</b>
**	85.3	77.3	74.3
放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか。 (複数選択)-7. 家でテレビや 動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている。	82.4	81.2	79.1

## 3 改善に向けた取組について

#### (1) 「考えることが楽しい」と感じられる授業づくりに努めます

いまくてき がくしゅう 意欲的に学習の取り組む子どもたちですが、弱みとなっている

領域(算数…「データの活角」、国語…「記述」等)を克服するために、消費えることを楽しみ、「分かった!」「できた!」「流もやってみよう!」を実感できる授業づくりに努めています。学校生活の大学は授業です。「学ぶことが楽しい」「だから学校が楽しい」と子どもたちが思えるような授業づくりに取り組んでいきます。

#### (2) 家庭学習習慣の定着と適度なスクリーンタイムを

萱童県や筌園に比べて家庭学習の時間が愛い結果となりましたが、テレビゲーム等の1 日の使用時間(スクリーンタイム)も愛いようです。SNS やオンラインゲームの危険性を 一学学院に理解し、どんなゲームをしているのか把握しておく必要があります。 養時間の使用 は健康被害にもつながります。 今後は計画的な家庭学習の実施と評価の定着に努め、 学習芳瑟や生活習慣の改善に取り組んでいきます。

#### (3) 「読書に親しむ時間」を作ってください

今回の児童質問紙の項首にはなかったのですが、読書は、豊かな酸性や情緒を育て、全ての学力の基礎になると言われています。ぜひ、ご家庭でもお子さんが、本に向かう機会をたくさん作っていただけたらと思います。

